熱海市制80周年記念式典
「熱海発展の歴史」

2017年4月10日

熱海市長　齊藤　栄

熱海発展の歴史　～近代から現在まで～

第一の成長期（保養地としての発展）

慶応3年	大政奉還
明治4年	伊豆国・相模国7郡で足柄県誕生
明治9年	足柄県廃止　伊豆国は静岡県に合併
明治14年	熱海温泉土地会社（大隈重信、伊藤博文、黒田清隆、井上馨） 熱海古屋会館（伊藤博文、黒田清隆、井上馨、五代友厚ほか）
明治18年	内務省・宮内省が離宮建設
明治19年	桂太郎兵衛が離宮を造成
明治21年	熱海御用邸竣工
明治22年	熱海 ― 東京間、日本初の公衆電話開設
明治24年	熱海村が熱海町となる
明治29年	熱海 ― 小田原間、人車鉄道開通
明治30年	尾崎紅葉『金色夜叉』連載開始
明治40年	熱海 ― 小田原間、軽便鉄道開通
大正7年	丹那トンネル工事着工
大正12年	関東大震災
大正14年	国鉄熱海線開通、熱海駅が現在地に

第二の成長期（観光地としての発展）

昭和9年	丹那トンネル開通、東海道線の停車駅に
昭和12年	熱海町・多賀村合併　熱海市誕生（市制施行）
昭和13年	初代熱海市役所庁舎完成
昭和20年	第二次世界大戦終戦
昭和25年	熱海大火
昭和28年	二代目の市庁舎竣工
昭和32年	熱海市と網代町合併、現在の熱海市誕生
昭和39年	東海道新幹線、新幹線熱海駅開業
昭和61年	熱海サンビーチオープン

第三の成長期（「新生熱海」への歩み）

平成12年	起雲閣オープン
平成26年	新生熱海中学校開校 三代目の市庁舎竣工 お宮跡地「ジャカランダ遊歩道」完成
平成28年	熱海駅舎が91年ぶりに全面改修
平成29年	市制施行80周年

新幹線開通当日の熱海駅

初代お宮の松 にぎわい

熱海市街 賑盛

軽便鉄道

福口ホテル　伊藤博文

新熱海駅舎・駅ビル

初代熱海市役所庁舎

開業時の熱海駅

熱海御用邸

熱海発展の歴史（時代認識、私見）

①江戸：　湯治場（家康の来湯）
②明治・大正：　保養地（政財界のセレブ）
③昭和：　観光地（新婚・社員旅行）
④平成：　？

◎熱海市は過去に2度、大きく発展

第1の成長期
（保養地としての発展）

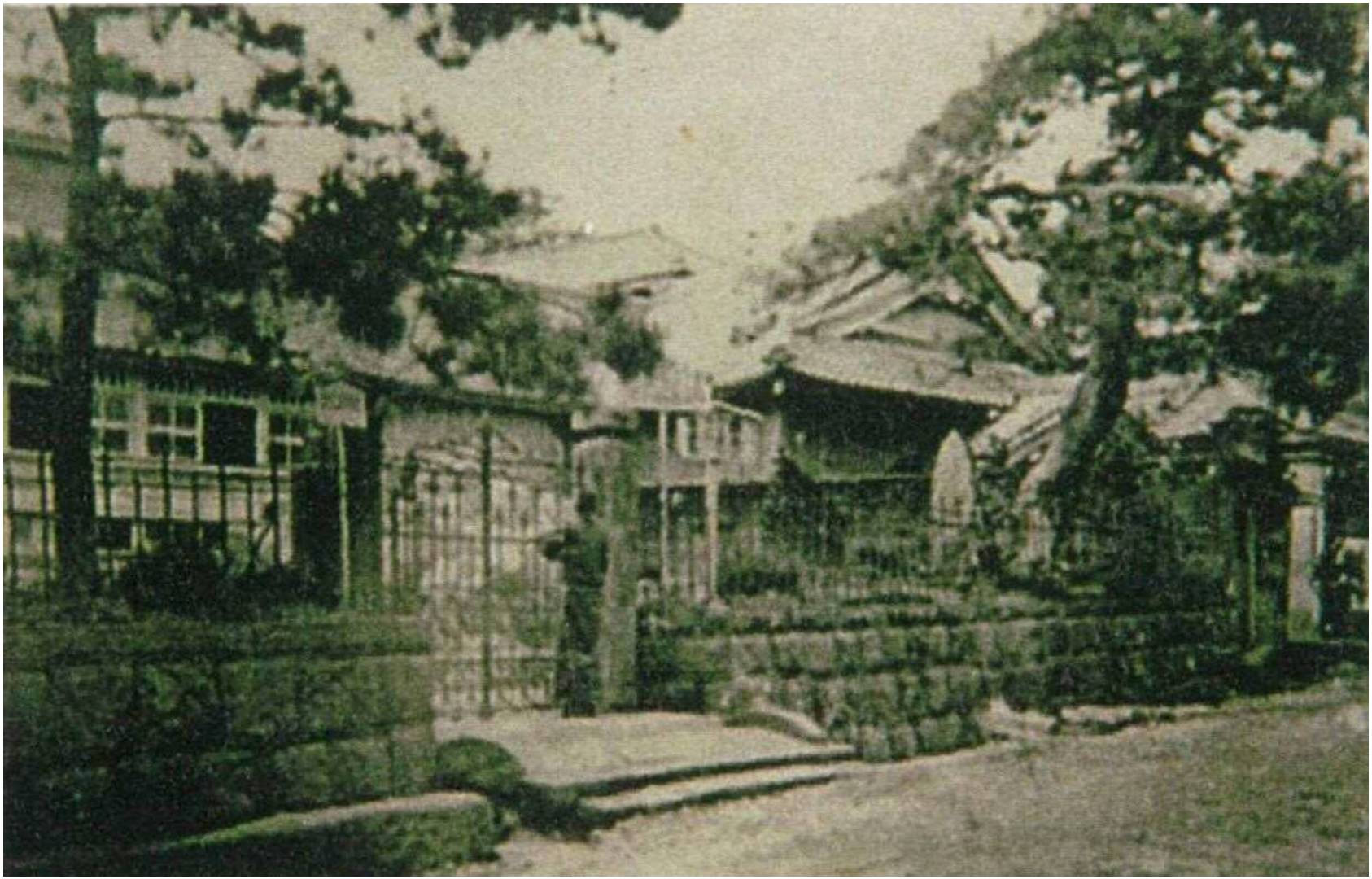
明治中頃～大正時代（3つのシンボル）

①嘯滝館（明治１８年）
②梅園（明治１９年）
③熱海御用邸（明治２１年）

⇒熱海の黄金期？

・時代の最先端
・政財界、文人墨客の保養地として繁栄

嗡溛舘（明治１８年）



梅園（明治１９年）

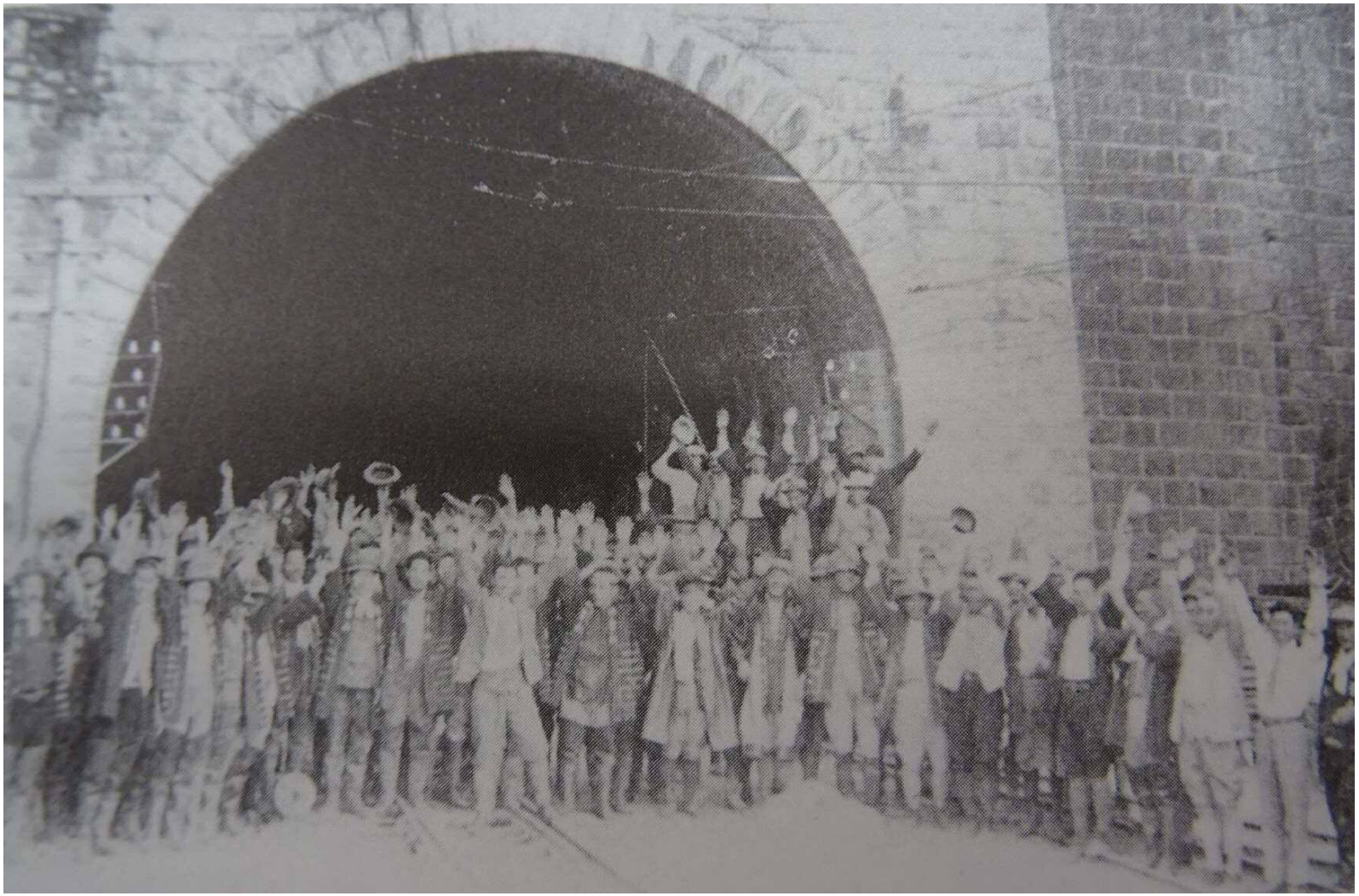
熱海御用邸（明治21年）

熱海が

「保養地」→「観光地」

に変わった契機は？

丹那トンネルの開通（昭和9年）



丹那トンネルの開通（昭和９年）

- 熱海と三島をつなぐ約７．８kmのトンネル
  関東はもちろん関西地方との結びつきを強めた

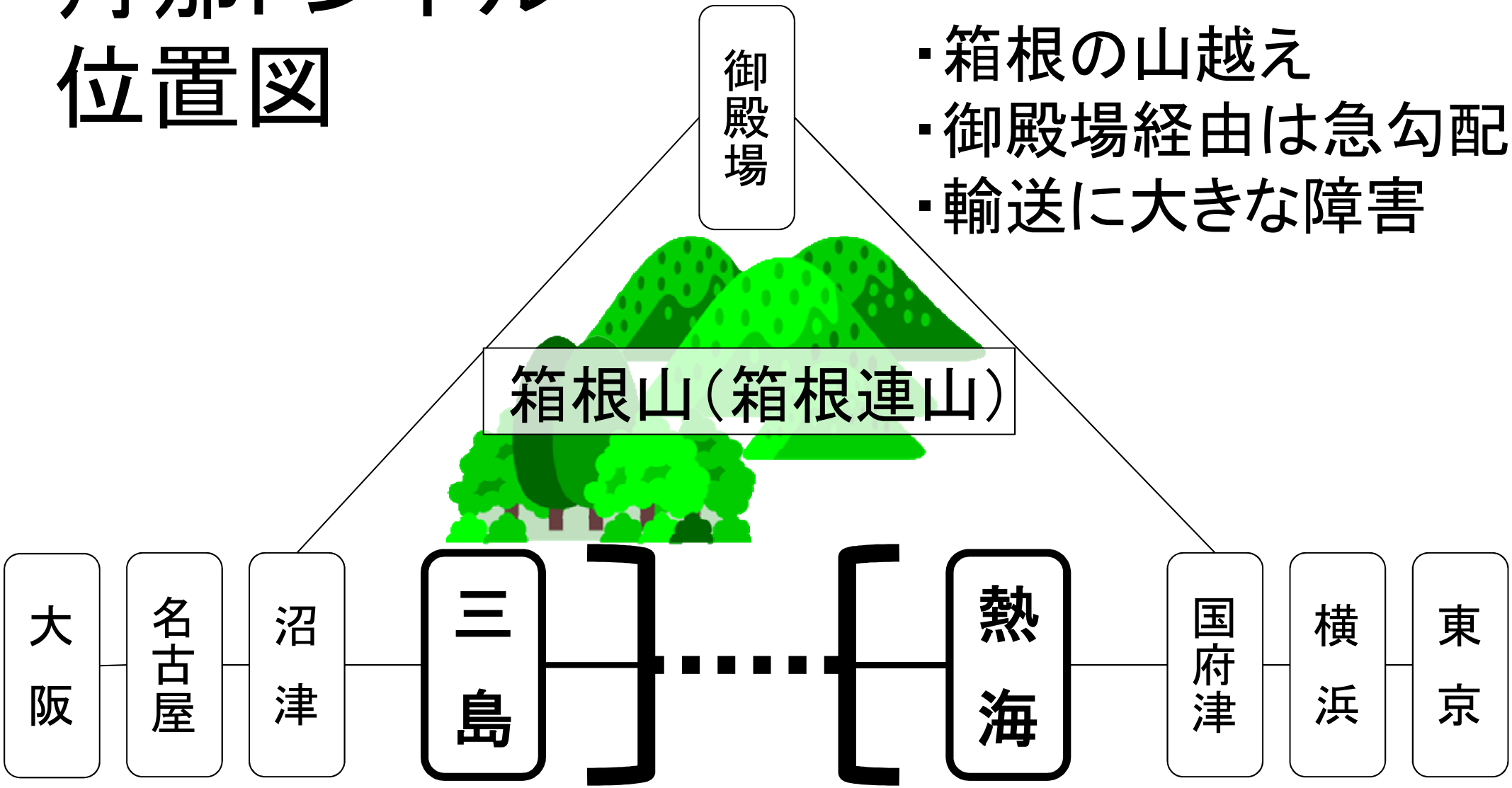
- 熱海の観光地化、大衆化が進む
  ⇒その後、新婚旅行、社員旅行のメッカに

- 同時に失ったものも

たん　な

丹那トンネル位置図

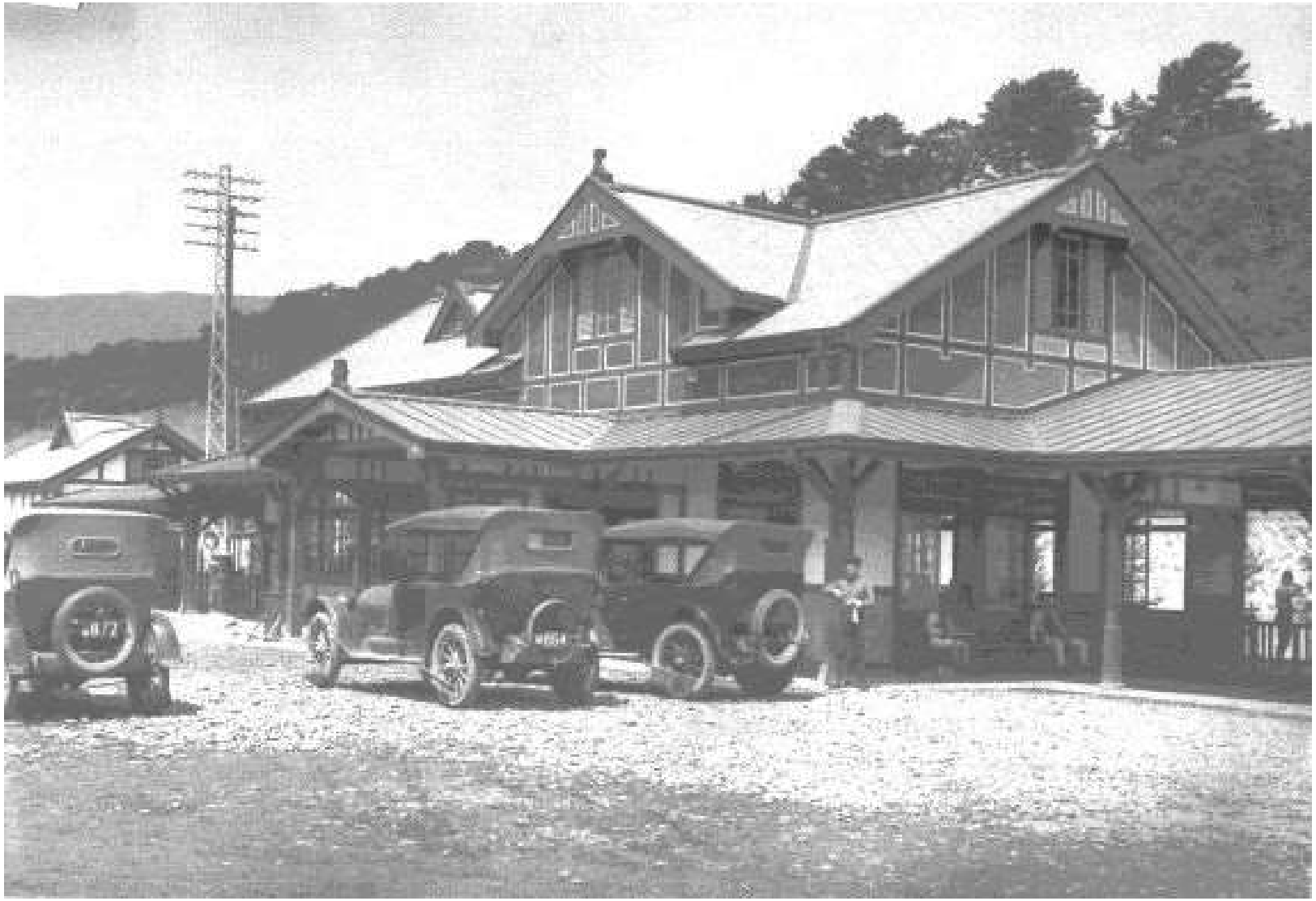
・箱根の山越え
・御殿場経由は急勾配
・輸送に大きな障害



丹那トンネル開通前後

- 熱海駅開業（大正１４年）
- 熱海市制スタート（昭和１２年）
- 熱海大火（昭和２５年）

熱海駅開業（大正１４年）



熱海市制スタート（昭和１２年）

昭和12年4月10日付『朝日新聞』号外

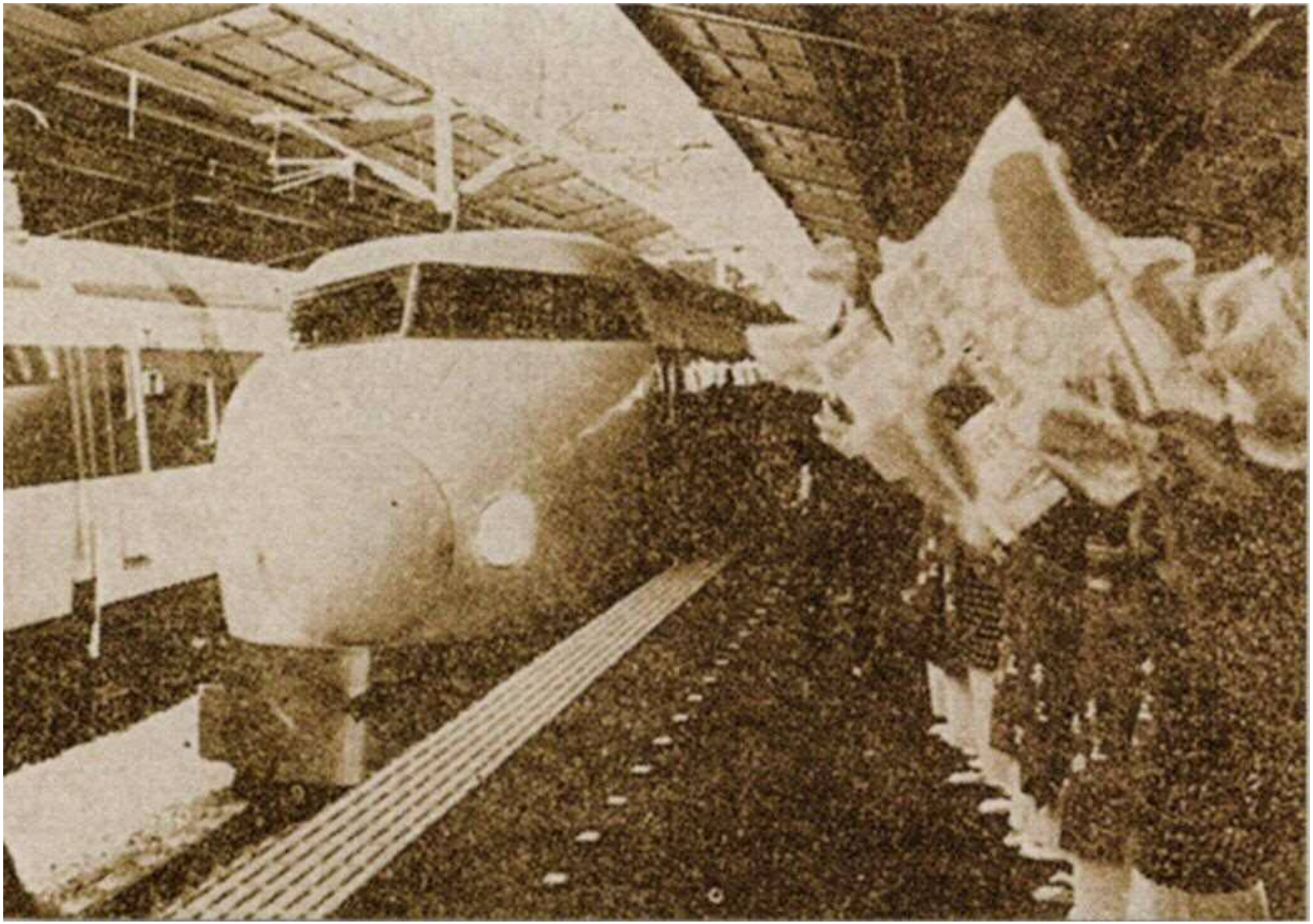
初代熱海市役所庁舎完成（昭和13年）

熱海大火（昭和２５年）

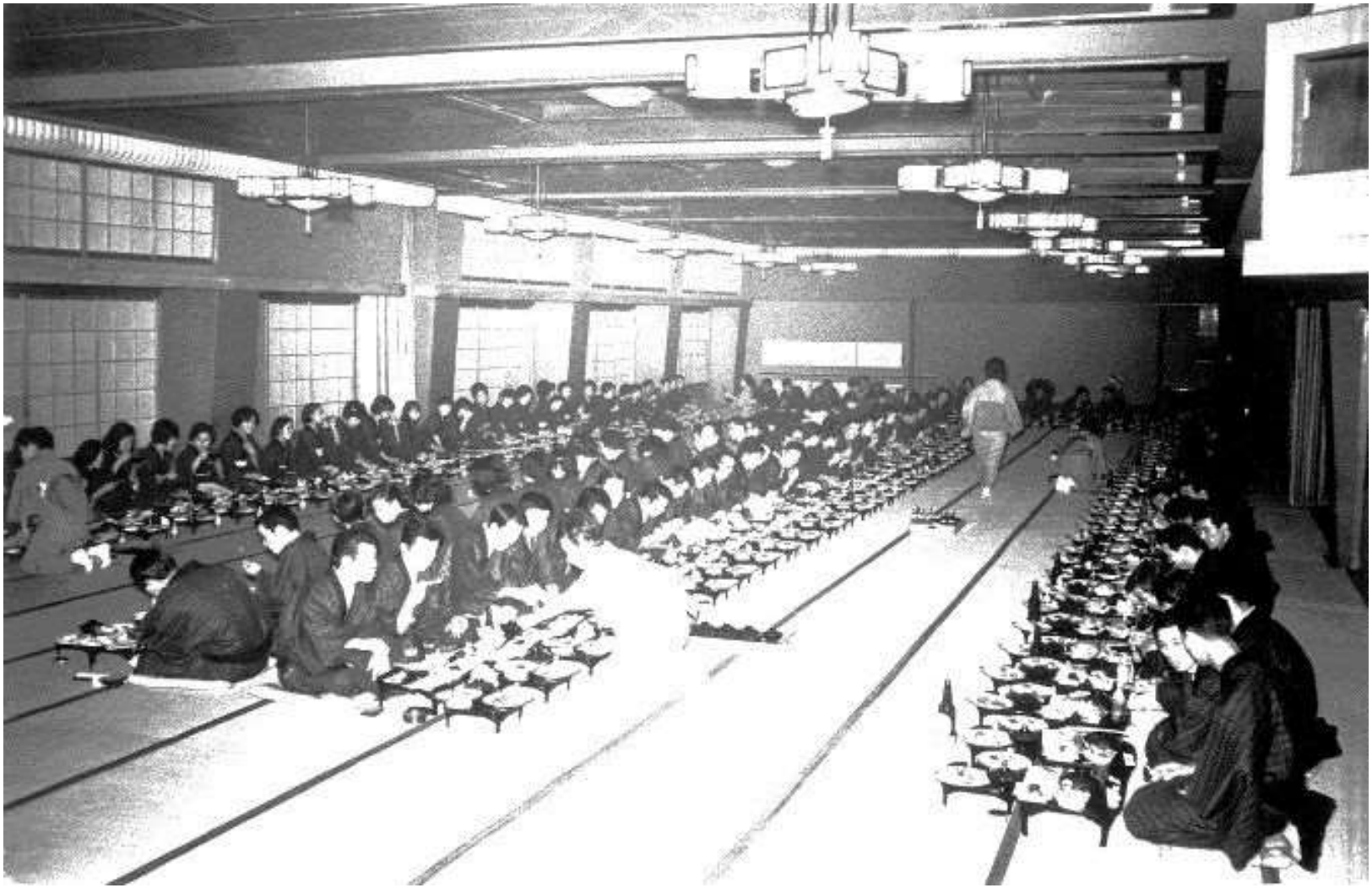
第2の成長期
（観光地としての発展）

初代 お宮の松 のにぎわい（昭和33年）

新幹線開通当日の熱海駅（昭和３９年）

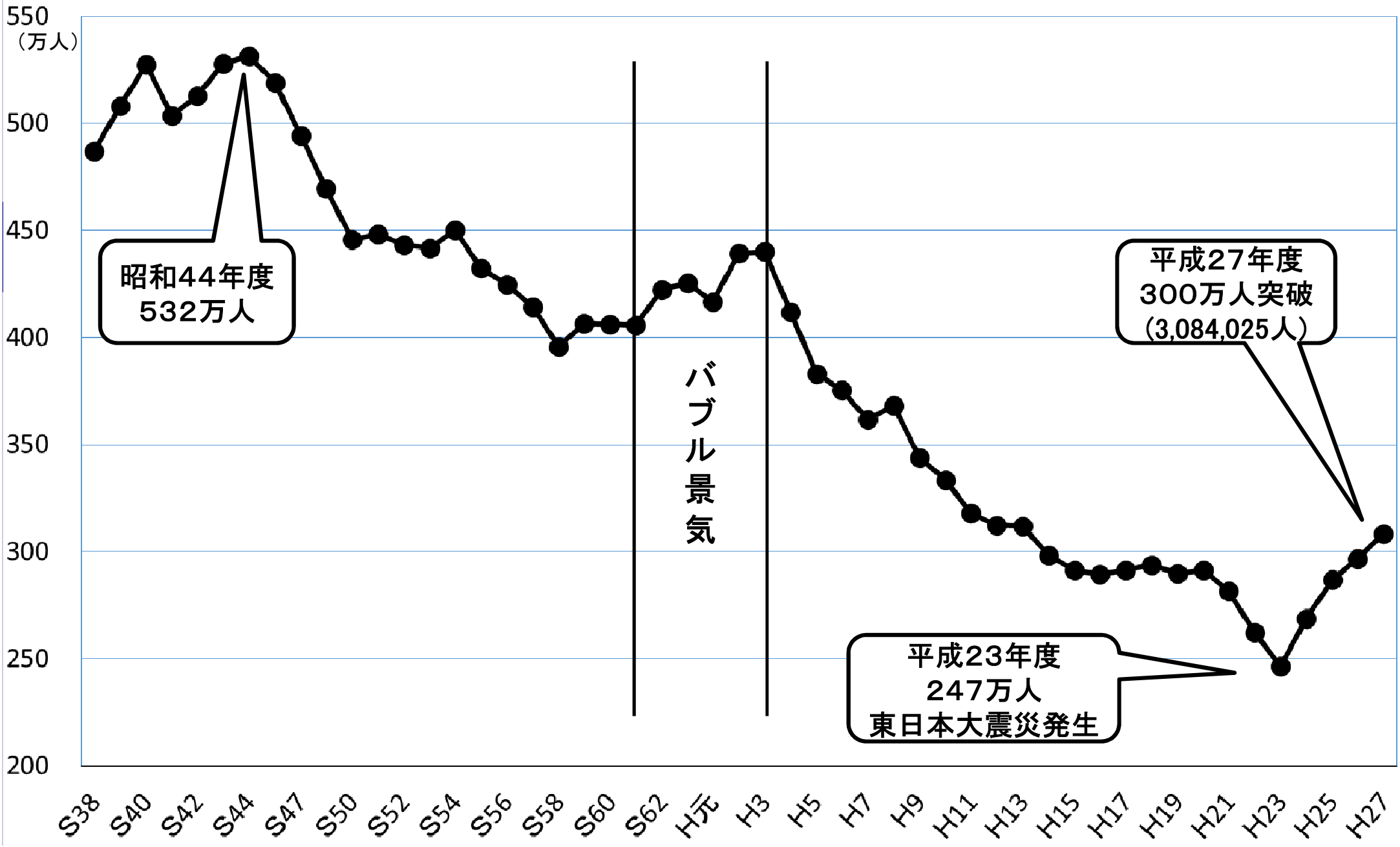


日本有数の温泉観光地へ（昭和40年代）



宿泊客数の推移（入湯税ベース）

熱海市



第3の成長期
（「新生熱海」への歩み）

三代目の市庁舎完成（平成26年）

ジャカランダ遊歩道完成（平成26年）

新熱海駅舎・駅ビル完成（平成28年）

市制施行80周年（今日）

熱海
80th
anniversary